

清水町役場での女性の課長職登用をどのように考えているか



なかがわ つるこ
中河つる子 議員

町長 男女関係なく、その能力や実績などを評価し適材適所での登用を考えている

問

11月16日、総務産業常任委員会の所管事務調査を行うため栗山町へ行ってきた。その調査に対しての質疑応答は担当の女性課長が行い、こちらの質問に要領よく答えていただき満足した。

また、司会を担当した議会事務局長も女性で、私たちの調査の目的を受け止め、上手に進行してくれた。昨年行った和歌山県の上富田町、愛知県豊橋市でも女性課長が活躍していた。そこで男女共同参画の観点から町長の考えを伺う。

(1) 女性の活躍が言われている中、本町でも1名の女性課長がいる。女性の経験、能力を活かしてもっと課長職に女性を登用する考えはないか。

(2) 女性課長職を生み出すには全職員の中で、一定数の女性職員が必要と思う。採用時から男女ともに平等な人数の採用

も必要と思うがどのように考えているか。

(3) 採用後も研修、経験等を男女平等に受ける機会を用意し、仕事に精通できれば、女性も男性と同じように力を発揮することができるのではないか。

町長

(1) 本町における女性の課長職については、過去に2名いた事があり、現在も1名が在職しているが男性職員に比べて少ない状況である。

また、課長職に女性を登用する考えはないかについては、男性女性に関係なく、その能力や実績などを評価して、適材適所での登用を考えており、清水町男女共同参画計画は本年度中に策定を予定している。

(2) 現在、職員採用においては、男女に差はなく平等な基準で採用している。これまでの傾向を

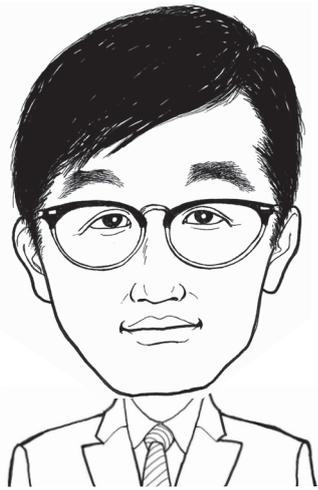
見ると事務職における採用試験の受験者数が、男性に比べて女性の割合が少ない状況である。今後、男女に関係なく優秀な人材の採用に努める。

(3) 現時点においても男女に関係なく平等に研修の機会を用意しており、令和3年度・4年度においては北海道及び北海道

市町村振興協会へ女性職員を派遣してきた。今後も、全ての職員が能力を最大限に発揮できるように職員研修等を実施したい。



課長職が出席する議場説明員席



たむら ゆきのり

田村 幸紀 議員

新体育館建設延長期間中の事業進捗について

様々な選択肢を考慮しながら令和7年度の実施設計に向けて検討を続けていく

問

新体育館建設計画は令和4年度までに基本構想・基本設計が完了しているが、建築資材等の高騰により事業費が増加し今後の推移も見通せないとなったため、令和5年度以降の年次計画が2年間延長されている。

この延長期間においては、建設計画実行が更なる延期かといった様々な方向性を社会情勢を見極めながら、これまで各種会議等で寄せられているスポーツ振興や地域活性化等の意見をさらに協議検討する時間として活用することが重要ではないか。

新体育館へ移行する見通しが立たなければ、現在の体育館を適正に耐震診断のもと改修するといった方向転換も選択肢として視野に入れるべきであり、計画延長が財政上の問題に絞られるのであれば、予算上限額に見合

った工事請負契約締結により実行することができないのではないかと。計画延長してから1年を経過しようとしている現時点における検討状況の進捗と、併せて経年劣化が進行する現状を鑑み、延長期間の長短に関わらず継続使用することによる利用者の安全安心を担保する施設運営の見通しを伺う。

また、現施設の長寿命化という点で大規模改修は難しい状況であると考

教育長

策定した基本構想・基本計画は、令和4年度までに実施した町民アンケートや町民検討会議、利用団体意見、パブリックコメントを踏まえ、更なるスポーツ振興や地域活性化と将来的な人口規模に伴う利用者の見通しと、町財政への影響を踏まえ、当初の目的である安全な社会体育施設の整備を基軸とした計画内容となっている。

昨今の社会情勢にお



現在の体育館

る建築費等の推移は依然として上昇傾向にあるため今後の動向を十分注視し、新体育館供用までの現体育館を安全に利用していただけるような必要な修繕を適宜実施し、施設の維持管理に努めていく。

えていくが、今後は様々な選択肢を考慮しながら令和7年度の実施設計に向けて検討を続けていく。引き続き、建設に向けて他自治体や各種補助金等の情報収集を行い、次年度は上記の点を踏まえ各種懇談会等で意見をいただいでいく。